「目標達成に向けた組織的な授業改善」
推進手引き（小・中学校版）
（改訂版）

【授業改善テーマ】

↓

【授業改善の重点】

↓

【取組内容】

↓

【取組指標】

↓

【検証指標】

令和３年　３月

大分県教育委員会

目　次

○ はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １

○「求められる授業像 」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２

○ 「目標達成に向けた組織的な授業改善」の推進・・・・・・・・・・・・ ７

～マネジメントサイクルを取り入れた授業改善～

～授業改善５点セットの具体例～

１　ＰＬＡＮ 授業改善計画の立案と体制作り

（１）学校の教育目標と連動した授業改善テーマの設定・・・・・・ １１

（２）授業改善５点セットの作成手順・・・・・・・・・・・・・・・ １２

（３）授業改善計画の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６

（４）管理職による授業改善の推進・・・・・・・・・・・・・・・・ １７

（５）授業改善の体制作り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８

２　ＤＯ 授業改善の推進

（１）授業実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １９

（２）研究協議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２０

（３）研究授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２１

（４）教科部会・教科会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２３

３　ＣＨＥＣＫ 成果と課題の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２５

４　ＡＣＴＩＯＮ 新しい授業改善計画の立案と実施・・・・・・・・・・ ２７

○ 学力向上プランの作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２９

○ おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３１

はじめに

１　改訂版作成の趣旨

○小・中学校では,「新大分スタンダード」に基づく組織的な授業改善等が進んだことにより，低学力層の割合が減少しつつあるなど学力が向上してきている。

○他方，これまで学校を支えてきたベテラン教職員が退職を迎え，若手教職員の育成が本県における喫緊の課題であり，組織的な授業改善の取組が一層求められる。

○小・中学校の校内研修は，教員の指導力の向上に一定の役割を果たしている。しかし，校内研修に費やす時間も限られ，教員の指導力向上や，さらには児童生徒の確実な変容につながっているのか，改めて検証していく必要があると考える。

○本手引きが最初に提示されたのは，平成２７年３月である。当時とは，国の動向も大きく変わってきている。

○このような現状を踏まえ，これまでの「授業改善５点セット」の趣旨は引き継ぎ，国の動向や本県の現状を時点修正して，改訂版を作成することにした。

２　改訂した主な内容

○求められる授業像・・・・中教審答申及び学習指導要領 総則編等を踏まえて

○５点セットの具体例・・・「求められる授業像」を踏まえて

○「学校評価の４点セット」と「授業改善５点セット」の関係を追加

○「中学校学力向上対策　３つの提言」の好事例を追加

・「教科部会・教科会議」の進め方の好事例

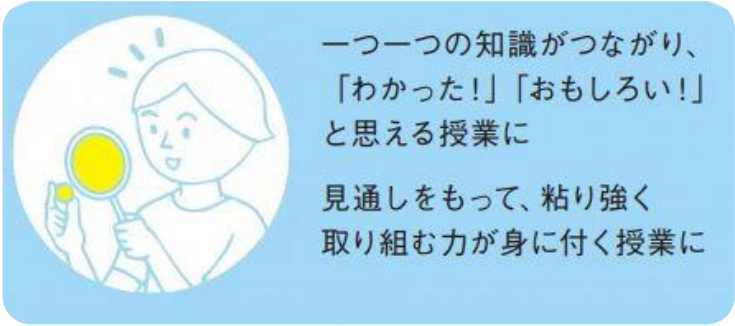
・生徒による「授業評価」の好事例

○学力向上プランの作成における留意点を追加

・・・「芯の通った学校組織」推進プラン第３ステージより抜粋

「求められる授業像 」

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進



○児童生徒に求められる資質・能力を育むために，児童や学校の実態，指導の内容に応じ，「主体的な学び」，「対話的な学び」，「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要である。

○主体的・対話的で深い学びは，必ずしも１単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。

○単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して，例えば，
- 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか，
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか，
- 学びの深まりをつくりだすために，児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか，といった観点で授業改善を進めることが重要となる。

○すなわち，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは，単元や題材などの内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を考える ⇄ 「単元や題材の指導と評価の計画」を考える

「新大分スタンダード」を意識した単元構想

○各教科等において，３つの資質・能力をバランスよく育むためには，主体的・対話的で深い学びは欠かせない。

○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるには，「単元や題材の指導と評価の計画」が必要である。

○新大分スタンダードは，１単位時間の授業改善の視点としてだけではなく，単元や題材を構想する上でも重要な視点となる。

新大分スタンダードのすすめ

新大分スタンダードで主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

１　１時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

２　板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

３　習熟の程度に応じた指導

*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫

４　生徒指導の３機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を創造する学習展開

*各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 ➡ 情報収集 ➡ 整理・分析 ➡ まとめ・表現・交流 ➡ 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

H31.3月版

○「めあて」，「課題」，「まとめ」，「振り返り」は，単元や題材の全体を構想する上でも，重要な要素。例えば，「めあて」「課題」は，単元や題材全体を見通して設定する場合がある。

○また，「振り返り」は短時間で「毎時間行う振り返り」の他に，時間を十分にかける「単元や題材全体の振り返り」等，単元や題材を見通して位置付けることが考えられる。

○生徒指導の3機能を意識した学習展開についても，1単位時間のみで考えるのではなく，単元や題材等のまとまりを見通し，どの時間にどのように設定するのを考えることが大切である。

「新大分スタンダード」を意識した単元構想

①まずは，単元の指導内容や育成すべき資質・能力を確認する。
②単元の指導内容に関わる子どもの実態をつかむ。（良さ，成長や課題について）
③上記のことを踏まえ，教材を選んだり，教科書の教材を吟味したりする。
④単元の目標を設定する。（育成すべき資質・能力の明確化）
⑤単元の指導と評価の計画を作成する。

教科内容の分析 ①

教材の選定・教科書教材の吟味 ③

児童生徒の実態 ②

④ 「単元の目標」を設定

⑤ 「単元の指導計画」

単元の展開計画	単元の評価計画
○育成すべき資質・能力が身につくような単元の中心となる学習活動や言語活動を検討する。 ○単元全体に関わる「めあて」や単元全体の「振り返り」等を検討する。 ○生徒指導の3機能のそれぞれを単元のどの場面に位置付けるか検討する。 等	○単元の評価規準を設定する。 ○1単位時間ごとの評価規準を設定する。 ○評価する場面と方法を明確にする。 等

◇本時は，３つの資質・能力のうち，何を育成する時間なのか，単元計画で確認する。
◇前時までの子どもの学習状況を踏まえ，本時の展開を考える。

「1単位時間の授業づくり」

○本時のねらい及び具体的な評価規準を設定する。

○本時の展開の概要を考え，「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を適切に設定する。

○子どもの思考を整理したり，思考を促したりする板書計画を立てる。

○課題に対する子どもの反応を想定し，補助発問や手立てを考える。　等

１単位時間の授業構想における留意事項

（１）「課題」を設定する際

○前触れもなく，唐突に「課題」を位置付けるのではなく，前時を振り返ったり，疑問を持たせたりしながら，「課題」に対し，自然に児童生徒の意識が向くように工夫する。

○「課題」には，「既習事項とのズレ」「適度な壁」「素朴な驚きや疑問」等が大切。

○「課題」を設定したら，それに対応する「まとめ」を設定する。その際，問いと答えの関係が成立しているか，子どもに分かる言葉なのか，時間的に無理がないか吟味が必要。

（２）「板書の構造化」・「板書とノートの一体化」

○「何を学ぶのかをつかめる板書」「学習内容の概要を振り返ることができる板書」等，子どもが見た時に，どこに何が書かれているのかが分かる板書を心がける。

○板書と子どものノートを一体化させ，子どもが家庭学習でも，授業の内容を思い起こすことができるようにする。

（３）「振り返り」・・・ 振り返りの内容を考えるときは，現在，過去，未来という視点で

○学習のプロセスや成果を振り返る・・・何をしたか。何が大切か。何ができるようになったか。等

○過去の経験や学習と関連付ける・・・・日常生活や既習事項とどんな関連があるか。等

○次回の学びへつなげる・・・・・・・・もっと考えたいこと，調べたいことは何か。改善には何が必要か。等

（４）「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の４つの要素を適切に設定

○毎時間の授業で，４つの要素がすべて必要だというわけではない。

○例えば，単元を見通した「めあて」が設定されており，本時の授業が開始される前から，子どもが「めあて」を意識しているならば，確認するだけでよい場合がある。

○また，「めあて」を設定し，発問等によって追究する事柄が明確になれば，改めて「課題」として設定しなくてもよい場合もある。

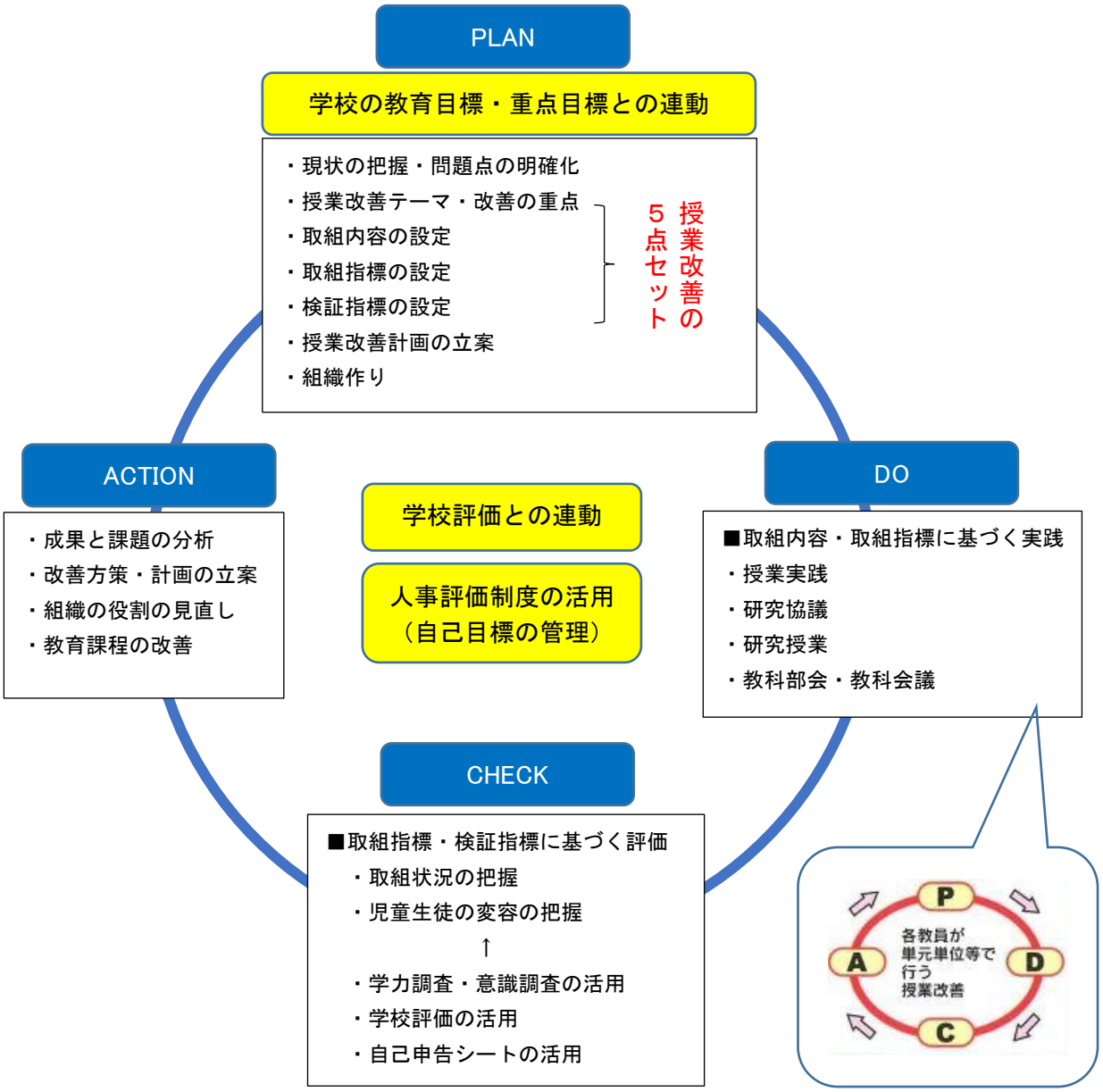
「目標達成に向けた組織的な授業改善」の推進

～マネジメントサイクルを取り入れた授業改善～

授業改善を組織的に進め，授業の質を向上させるためには，以下の点に留意することが重要である。

①授業改善にマネジメントサイクル（ＰＤＣＡサイクル）を取り入れること
・計画立案（ＰＬＡＮ），実践（ＤＯ），検証（ＣＨＥＣＫ），改善（ＡＣＴＩＯＮ）の段階を意識した取組を実施し，確実に授業改善を進める。
・授業改善の５点セット(次ページ参照）を設定し，検証指標を明確にして取り組む。
②管理職がリーダーシップ・マネジメントシップを発揮し，授業改善を組織的に進めること

＜授業改善の PDCA サイクルのイメージ（学期に１回のサイクルを想定）＞



～　授業改善の５点セットの具体例　～

「授業改善の５点セット」とは，各学校が目指す授業像を実現するためのマネジメントツールであり，文字通り，各学校が授業の改善を図るために設定するものである。

【授業改善テーマ】

【授業改善テーマ】
学んだことを活かして，論理的に説明できる子どもを育てる授業

【授業改善の重点】

【授業改善の重点】
説明する場面等を，単元の中で意図的に位置付けた授業の推進

【取組内容】

【取組内容】
単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

【取組指標】

【取組指標】
・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観し，意見や感想を書いて提出する。
・各教科の単元テスト等に，「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。（単元に入る前に作成又は確認）

【検証指標】

【検証指標】
□「知識を活用して説明する」問題の正答の割合
・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率，８０％以上。

□教員等による意識調査（２ヶ月毎）における回答者の割合
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と肯定的な回答をする教員の割合，８０％以上。

～「学校評価の４点セット」と「授業改善の５点セット」の関係～

○「４点セット」の重点的取組が，「５点セット」の授業改善テーマ・重点等と重なる例

学校評価の4点セット

（重点目標）
論理的思考力の育成

（達成指標）
・「単元内キーワードミニテスト」の合格者100％。
・単元テストの記述問題の無解答率０％。

（重点的取組）
・単元内キーワードミニテストの実施
・単元や題材の指導計画に
「自分で調べる場面」と
「班などで説明する場面」の２つを必ず設定

（取組指標）
・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・学年の実態に合わせて，３教科程度の「単元内キーワードミニテスト」を作成し，週３回実施する。（宿題もあり，繰り返し行う）

※達成指標には，短期で検証する指標に加え，必要に応じて長期の指標を設定する場合もある。
（例）学力調査（12 月）の活用問題の平均正答率，全国平均以上。（年１回の検証）

授業改善の5点セット

（授業改善テーマ）
学んだことを活かして，論理的に説明できる子どもを育てる授業

（重点改善の重点）
説明する場面等を単元の中で意図的に位置付けた授業の推進

（取組内容）
単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

（取組指標）
・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観し，意見や感想を書いて提出する。
・各教科の単元テスト等に「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。（単元開始前に作成・確認）

（検証指標）
・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０％以上。
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と肯定的な回答をする教員の割合を８０％以上。（２ヶ月毎に調査）

○「４点セット」は，各学校の重点目標の実現に向けて設定されるのに対して，「５点セット」は，各学校の授業改善に向けて設定されるものである。

○上の「４点セット」は，論理的思考力の育成（重点目標）に向けての取組であり，授業改善の取組だけではない。

○そこで，「４点セット」の「重点的取組」をベースにしながら授業改善の具体的な取組を「５点セット」を活用して明らかにしている。

○「４点セット」の重点目標が，「５点セット」の授業改善テーマ・重点と重なる例

学校評価の4点セット

（重点目標）
学んだことを活かして，論理的に説明する力を育成する授業改善

（達成指標）
・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０％以上。
・学力調査（12 月）の活用問題の平均正答率，全国平均以上。（年１回の検証）

（重点的取組）
単元や題材の指導計画に
「自分で調べる場面」
「班などで説明する場面」の２つを必ず設定

（取組指標）
・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・各教科の単元テスト等に「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。（単元開始前に作成・確認）

授業改善の5点セット

（授業改善テーマ）
学んだことを活かして，論理的に説明できる子どもを育てる授業

（重点改善の重点）
説明する場面等を単元の中で意図的に位置付けた授業の推進

（取組内容）
単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

（取組指標）
・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観し，意見や感想を書いて提出する。
・各教科の単元テスト等に「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。（単元開始前に作成・確認）

（検証指標）
・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０％以上。
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と肯定的な回答をする教員の割合を８０％以上。（２ヶ月毎に調査）

○上の例では，「４点セット」の重点目標に，自校が目指そうとしている授業像が設定されている。そのため，「４点セット」の重点目標が，「５点セット」の「授業改善テーマ・重点」とほぼ同じ内容になっている。
　このような場合は，「４点セット」と「５点セット」を別々に考えず，各学校の取組として，２つを重ねて設定することも考えられる。

○その場合，上の例のように，「５点セット」には，「取組指標」や「検証指標」に授業改善に直接関わりのある指標を加える等の工夫が必要である。

１ PLAN　授業改善計画の立案と体制作り

（１）学校の教育目標と連動した授業改善の５点セットの設定

＜ 学校の教育目標と連動した授業改善５点の設定イメージ（例） ＞

（学校の教育目標）
自ら考え行動し，ともに高まり合う，心豊かでたくましい子どもの育成

（目指す子ども像）
・学んだことを活かそうとする子ども　（ファイトマン）
・自ら問いをもち，自ら考える子ども　（アイディアマン）
・友だちや多様な人たちと協力する子ども（ハートマン）

（子ども像を支える資質・能力）
・論理的思考力
・他者と協働する力

今年度は，特に「自ら問いをもち，自ら考える子ども」に焦点をあてる。

学校評価の４点セット

（重点目標）
論理的思考力の育成

（達成指標）
・「単元内キーワードミニテスト」の合格者 100%。
・単元テストの記述問題の無解答率０%。

（重点的取組）
・単元内キーワードミニテストの実施
・単元や題材の指導計画に
「自分で調べる場面」と
「班などで説明する場面」の２つを必ず設定

（取組指標）
・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・学年の実態に合わせて，３教科の「単元内キーワードミニテスト」を作成し，週３回実施する。（※宿題もあり，繰り返し行う）

授業改善の５点セット

（授業改善テーマ）
学んだことを活かして，論理的に説明できる子どもを育てる授業

（重点改善の重点）
説明する場面等を単元の中で意図的に位置付けた授業の推進

（取組内容）
単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

（取組指標）
・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観し，意見や感想を書いて提出する。
・各教科の単元テスト等に「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。（単元開始前に作成・確認）

（検証指標）
・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０%以上。
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と肯定的な回答をする教員の割合を８０%以上。
（２か月毎に調査）

（２）授業改善５点セットの作成手順

①授業改善テーマ・授業改善の重点と取組内容の決定

＜ 授業改善テーマ・授業改善の重点と取組内容の例 ＞

【授業改善テーマ】
学んだことを活かして，論理的に説明できる子どもを育てる授業

↓

【授業改善の重点】
説明する場面等を，単元の中で意図的に位置付けた授業の推進

↓

【取組内容】

単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

○学校の教育目標・重点目標と連動した【授業改善テーマ・授業改善の重点】が決定した後は，それらに基づき，【取組内容】を決める。これにより，全教職員による共通実践事項が明確になり，学校全体で取り組む基盤ができる。

○「授業改善テーマ」とは，各学校の授業改善の方向性を示すものである。
・校内研修における研究課題とも言える。
・自校の授業をどのように改善したいのか，自校の教諭等がイメージできるものがよい。
例えば「～して，○○する力を育てる授業」「～して，○○する子どもを育てる授業」等

○「改善の重点」とは，授業改善テーマをさらに，焦点化したものである。
・校内研修における研究課題に対するサブテーマとも言える。
・目指す授業像がより具体的になり，何に取り組むのかイメージできるものがよい。

○「取組内容」とは，授業改善を進めるために，実際に取り組むことである。
・授業改善に向けて，効果が期待できそうな取組を設定する。

※「授業改善テーマ」が，初めから焦点化されている場合は，「授業改善の重点」とセットで考えてもよい。無理に分けて位置付けなくてもよい。

②取組指標の設定

＜ 取組指標の例 ＞

【授業改善テーマ】
学んだことを活かして，論理的に説明できる子どもを育てる授業

↓

【授業改善の重点】
説明する場面等を，単元の中で意図的に位置付けた授業の推進

↓

【取組内容】

単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

↓

【取組指標】
- 全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
- 全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観し，意見や感想を書いて提出する。
- 各教科の単元テスト等に，「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。（単元に入る前に作成又は確認）

○授業改善をかけ声だけで終わらせず，学校全体で確実に進めるためには，「取組内容」について「取組指標」を設定し，何をどの程度行うことで，目標達成を図ろうとしているのか，明確にする必要がある。

○「取組指標」は，学校全体で共通した実践に取り組むときの拠り所となる。

○「取組指標」は，一つとは限らない。次のような工夫で無理なく，複数を設定できる。
- 校内研修や学校が伝統的に取り組んできたこと等，平素より行われていたことを少し改良し，取組指標にする。

③検証指標の設定

＜ 検証指標の例 ＞

【取組内容】

単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

【取組指標】

・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観し，意見や感想を書いて提出する。
・各教科の単元テスト等に，「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。（単元に入る前に作成又は確認）

【検証指標】

・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０％以上。
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と肯定的な回答をする教員の割合を８０％以上。（２ヶ月毎に調査）

【学校評価の４点セットにおける達成指標】

・「単元内キーワードミニテスト」の合格者 100%。（短期の指標）
・単元テストの記述問題の無解答率０％。（短期の指標）

※学力調査（12 月実施）の活用問題の平均正答率，全国平均以上。（長期の指標は必要に応じて）

○授業改善の成果を明らかにするためには，児童生徒がどのような状態になったときに授業改善のテーマが達成できたと判断するのか，数値化された【検証指標】を目安として設定する必要がある。

○【取組内容】を【取組指標】に基づいて行うことで【検証指標】を達成できるように設計されていること。

○【検証指標】を達成することで，「学校評価の４点セット」における達成指標の達成に確実に近づくように設計されていること。

○【検証指標】には，児童生徒意識調査，学校独自で作成した質問紙やテストの結果，観点別学習状況の評価結果，学校評価の結果等を活用する。

④授業改善の５点セット

【授業改善テーマ】

【授業改善テーマ】
学んだことを活かして，論理的に説明できる子どもを育てる授業

↓

【授業改善の重点】

【授業改善の重点】
説明する場面等を，単元の中で意図的に位置付けた授業の推進

↓

【取組内容】

【取組内容】
単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

↓

【取組指標】

【取組指標】
・全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観し，意見や感想を書いて提出する。
・各教科の単元テスト等に，「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。（単元に入る前に作成又は確認）

↓

【検証指標】

【検証指標】
・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０％以上。
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と肯定的な回答をする教員の割合を８０％以上。

○目標達成に向けて組織的に取り組む授業改善を推進するためには，どのような授業改善に取り組むのか，何をもって授業改善が進んだと判断するのかを明確にする必要がある。

○次の段階１から段階４のブレイクダウンを行い，上記の５点をセットとして構想する。

段階１　学校の教育目標・重点目標を授業改善の視点から具体化した【授業改善テーマ】の設定
段階２【授業改善テーマ】を具体化した【授業改善の重点】【取組内容】の設定
段階３【取組内容】をどのくらいの頻度で行うのかを決める【取組指標】の設定
段階４【授業改善テーマ】の達成を判断する目安として数値化した【検証指標】の設定

○「授業改善の５点セット」は，授業場面を想定しながら，「学校評価の４点セット」と同時に作成することが望ましい。

（３）授業改善計画の策定

授業改善は，「授業改善の５点セット」に基づき，取組状況や児童生徒の変容を確認しながら，１年を通して計画的に行うことが必要である。このため，授業改善計画を作成する必要がある。

＜ 授業改善計画のイメージ ＞

【授業改善テーマ】 学んだことを活かして，論理的に説明できる子どもを育てる授業

【授業改善の重点】 説明する場面等を，単元の中で意図的に位置付けた授業の推進

【取組内容】 単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

【取組指標】
- 全ての教員が年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
- 全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観し，意見や感想を書いて提出する。
- 各教科の単元テスト等に，「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定。（単元に入る前に作成又は確認）

日常の授業実践
管理職等の授業観察

授業改善に関する協議
教科部会や学年部会

互見授業や研究授業
管理職等の指導・助言

＜個々の教員が行うこと＞
- 各教科等の単元計画（指導と評価の計画）の作成
- 単元計画に基づいた授業実践
- 各教科の単元テスト等に，「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定。その際，単元に入る前に作成又は確認する。
- 学期に１回を原則として，公開授業を実施する。
- 学期に１回を原則として，他の教諭の公開授業を参観する。その際，授業記録を必ずとること。意見や感想は，記録に基づき，子どもの学習状況を踏まえて書くこと。

【４月～５月】
＜目指す授業像の明確化＞
- 児童生徒の実態把握
- 問題点等の共通理解
- 「授業改善の５点セット」の共通理解
- 目指す授業像の共有
- 互見授業，研究授業の年間計画

【６月～１２月】
＜効果的な指導法の確立＞
- 取組内容・取組指標に関する交流
- 研究授業の指導案検討
- 各種学力調査・学校評価等の結果分析
- 中間評価，取組内容の検討・修正
- 効果的な指導法の確立と共通理解

【１月～３月】
＜検証・次年度計画案の作成＞
- 各種学力調査・学校評価等の結果分析
- 年間の授業改善の検証と次年度の計画

＜互見授業の取組＞
- 全ての教員が年３回以上，公開授業を行う。
- 全ての教員が年３回以上，他の教諭の公開授業を参観する。

＜研究授業の取組＞
【４月～７月】
- １名が全体研授業
- 指導主事招聘

【９月～１２月】
- ２名が全体研授業
- 指導主事招聘

【１月～３月】
- 研究のまとめ
- 指導主事招聘
- 来年度の方向性

※互見授業は，学年部授業・教科部授業等を組み合わせて実施

【検証指標】
□「知識を活用して説明する」問題の正答の割合
・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０％以上。
□教員等による意識調査（２ヶ月毎）における回答者の割合
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と，肯定的な回答をする教員の割合８０％以上。

（４）管理職による授業改善の推進

○校長等管理職は，日々の授業観察において，「授業改善の５点セット」中の【取組内容】が各教室でどのように具体的に実施されているのかを見て，授業改善の進捗状況を把握するとともに，指導助言を通して，教員一人一人の授業改善に積極的に関わることが求められる。
○そのため，どの学校でも使える授業観察シートに基づくものではなく，自校の【取組内容】を踏まえて，授業観察の視点を設ける必要がある。

＜授業改善５点セットの【取組内容】を盛り込んだ授業観察シート（例）＞

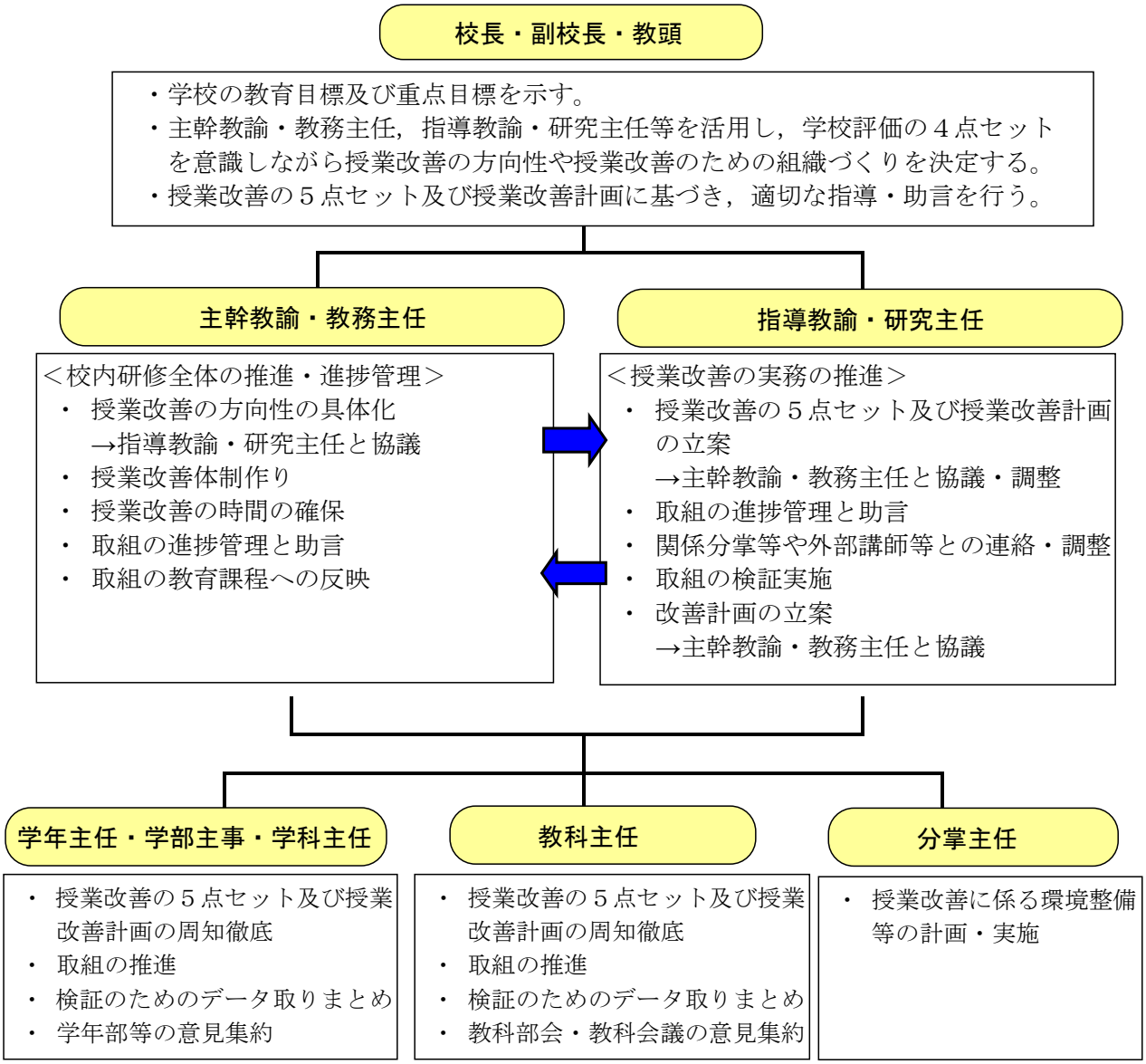
授業者名		日時	学級
教科・単元名			
ア【指導の状況】	項　　目		評　価
本時の授業に関する基本的事項	□学習の見通しをもたせ，学習意欲を高めていたか。		
	□本時において，追究すべき事柄が明確だったか。		
	□本時において，追究した結果をわかりやすくまとめているか。		
	□学びの成果を実感又は次につながる等の振り返りができているか。		
	□考えを整理したり，思考の過程を振り返ったりできる板書か。		
	□努力を要する状況の子どもに対する手立ては適切か。		
イ【指導の状況】	項　　目		評　価
【取組内容】に関する指導の状況 ※当てはまらない項目は斜線	□説明する場面が単元計画に適切に位置付いている。 ・説明は，育てたい資質・能力に適した学習活動であったか。 ・説明は，子どもにとって必然性のある学習活動であったか。		
	□調べる場面が単元計画に適切に位置付いている。 ・調べる活動は，育てたい資質・能力に適した学習活動であったか。 ・調べる活動は，子どもにとって必然性のある学習活動であったか。		
ウ【子どもの学習状況】	項　　目		評　価
【取組内容】に関する子どもの状況 ※当てはまらない項目は斜線	□既習事項や必要な情報を活用して説明している。		
	□結論と根拠を明確にした筋道立った説明をしている。		
	□目的に応じて，自分で調べ方を決めて調べている。		
	□説明場面や調べる場面により，考えを深化・拡充している。		
【コメント】			

○管理職は，授業観察シート等を用いて授業者に指導助言を行うことだけでなく，授業観察で見出した【取組内容】に関する好事例や，気になる児童生徒の状況等を記録し，学年部会や教科部会・教科会議等にフィードバックすることも求められる。

○管理職は，授業観察シート等の記録を活用して，研究主任等に研究協議の柱を設定させたり，授業改善計画の見直しをさせたりするなど，授業観察を学校全体の授業改善に活用する環境を整えていくことが重要である。

（５）授業改善の体制作り

＜ 管理職・主任等の役割分担のイメージ ＞



○授業改善を学校全体で推進するためには，「授業改善の５点セット」を共通理解するとともに，管理職がリーダーシップとマネジメントシップを発揮し，以下の点に留意して，授業改善を組織的に進める体制を作ることが必要である。

① 管理職は，授業改善の明確な方向性を示すとともに，的確な管理・運営を行うため，主幹教諭や教務主任等に適切な指導助言を行う。

② 管理職は，学校の規模や実情を踏まえ，必要に応じて，授業改善のための組織を編成する。

③ 主幹教諭，教務主任，指導教諭及び研究主任等は，緊密に連携し，改善を進める。

２ DO　授業改善の推進

（１）授業実践

【取組内容】を教員一人一人が，具体的に理解する

授業改善の主体は，教員一人一人である。学校として設定した【取組内容】をもとに，自分の学年や教科において，どのような点について工夫をし，理解を深めていくことが授業改善につながるのか，より具体的な取組を自分なりに考え，日々の授業で実施していくことが重要である。

【取組内容】　単元や題材の中で，自分で調べる場面，説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

【工夫例】教材「世界にほこる和紙」（「国語４下はばたき」（光村図書）を中心に据えた単元

・国語の「世界にほこる和紙」では，伝統工芸について調べて分かったことを，ALT に伝えるという単元全体の言語活動を設定しよう。

・「自分で調べる場面」は，関心のある伝統工芸の本を選ばせ，本を学んだ読み方で読ませ，何を説明するのために，どのような例を挙げているか，カードにまとめさせよう。

・「説明する場面」は，選んだ本から，伝統工芸のよさが書かれている部分を中心に要約させ，ALT に伝える活動をいれてみよう。

【検証指標】に基づき短期的に授業を検証する

日々の授業において，児童生徒の記録から授業の成果や課題を考察する際には，教師の主観的な判断とともに，客観的な判断材料として【検証指標】を短期的に確認することが有効である。

【検証指標】　知識を活用して説明する」問題の正答の割合

・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０％以上。

・例文を参考にしながら，各まとまりの「中心となる語や文」を，筆者が「例としてあげている部分」と区別して読めるかどうかを確認できるような記述問題を単元末テストに設定しよう。

（２）研究協議

研究協議では，次のような内容が考えられる。

理論研究

○授業改善の研究の取り掛かりや改善策の策定時期においては，基盤となる考え方や知識等を共通理解しておく必要がある。
○研究主任等は，適切な資料を用いて自ら説明するだけでなく，指導主事や先進校教職員等を招聘しての講義，先進校視察など研究方法を工夫する。

実践交流・分析

○日々の実践の記録や児童生徒の学習の成果物等を持ち寄り，【取組内容】【取組指標】として設定された共通実践に関する情報交換をする。
○その際，研究主任等は，協議の柱を明確にするとともに，ワークショップ型の協議等，話し合いの形式を工夫することで，全員参加の協議となるように配慮する。

互見授業の設定

○実践を交流するに当たっては，互いの授業を見て，自らの授業の課題や他の教員の授業の良いところ，課題のあるところを考えておく必要がある。
○このため，研究主任等は教務主任等と連携し，「互見授業ウィーク」等を計画的に設定する必要がある。
○互見授業の実施に当たっては，授業を公開する学級・時間・単元名等を一覧表にするなどして全員が参加しやすい体制を整える必要がある。
　また，互見授業を組織的な授業改善に繋げるには，参加者が【取組内容】に基づく視点で授業を見合うことが大切である。（１７ページ「授業観察シート」参照）
○互見授業で得られた情報を印象で整理するのではなく，児童生徒の学びの状況をもとに，意見を述べ合い，取組の効果について吟味していくことが重要である。教員の学び合いはそのような中で深まる。
○昨今，互見授業では指導案を作成しないことや，簡略化する傾向が見られるが，指導案や板書計画をつくる力は，授業を構想する力でもある。「互見授業ウィーク」等の機会には，指導案や板書計画の作成を求めることは人材育成の上でも有効である。また，単元計画等を書かせ，単元構想力の伸長を図ることも重要である。

研究授業に向けた学習指導案の事前検討

○研究授業に向けた学習指導案の事前検討会に誰が参加するかは，下の①～⑤の選択肢が考えられる。　①指導教諭・研究主任・主幹教諭・教務主任
②学年主任・学部主事・学科主任等
③教科部員　④学年部員　⑤教職員全員
○指導案作成以前から関わる場合は，①や②の少人数で，授業改善計画のどこに位置付く授業であるのか，目的を明確にし，指導案作成に取り掛かる。
○指導案がある程度できている場合は，事前検討を⑤で行う場合と③④で行う場合とがある。校種や学校規模に応じて実施する。

（３）研究授業

研究主任等は，研究授業を有意義なものにするために，事前に指導案と「研究授業・事後検討会の進め方」を配布するなどして，事後検討会の協議の柱や役割分担を明確にする必要がある。

参加者全員の授業の質を変える研究授業に

事後検討会を充実させるポイント

事後検討会における協議の柱の明確化

○協議の柱を全員が理解していることが重要である。
○授業参観の前に研究主任等が参観者に対して以下の点について説明して，協議で何を明らかにしようとしているのかを明確にしておく。

① 事後検討会の進め方と協議の柱
② 本時の目標と具体的な評価規準・評価方法
③ 本時の授業で提案する工夫や改善点と期待される効果

役割分担の明確化

○研究主任等は，事前配布の「研究授業・事後検討会の進め方」に役割分担表も記載しておくと，教員の参画意識が高まり，組織的な授業改善の推進につながる。

（役割分担表の例）

①授業記録	・写真（○○）※板書と抽出生徒Ｍ とＨ のノートは必ず撮影 ・ビデオ（○○）※グループ学習の際，今回は５班を撮影 ・発問等の記録（○○） ※協議の柱に関する部分にはアンダーラインを引く
②生徒の記録	・グループ学習の際に記録 １班（○○） ２班（○○） ３班（○○） ４班（○○） ・評価規準に基づく評価の分担 １班（○○・○○・○○）それぞれ４人分を評価 ： ５班（○○・○○）それぞれ４人分を評価
③事後検討会	・全体進行（○○） ① 検討会の進め方・協議の柱の説明（研究主任） ② 授業の振り返り ③ ワークショップ型協議 グループの進行 Ａ班（○○）Ｂ班（○○）・・・・ ④ 全体協議 司会（○○） 記録（○○） 板書（○○） ※全体会では，グループで協議された内容の研究上の意味付けを行い，「授業改善の５点セット」と結び付けるように進める。

事後検討会における「授業者の振り返り」の焦点化

【例】『自分の考えを書いてまとめさせた上で，考えを深化・拡充するための交流活動』を【取組内容】に設定した場合

◇研究主任等が授業参観前に提示した「事後検討会の協議の柱」（例）

＜本時の提案＞
○自分の考えを深化・拡充するために，交流活動でＫＪ法等のシンキングツールを活用する。
＜協議の柱＞
○シンキングツールは互いの考えの共通点と相違点を整理し，考えを深化・拡充する上で有効であったか。
＜授業記録＞
○グループ協議における「考えの整理の仕方」に着目して記録。
○分担したグループの一人一人について，評価規準に基づいた評価も行う。

◇授業者の振り返りの具体例
・「交流の場面でシンキングツールを活用して，互いの考えの共通点や相違点を整理させた。整理をする過程で，生徒Ｔは，結論は同じでも，根拠の異なる生徒Ｍの意見を生かして，○○○と書いていたことを△△△と書き換えていた。」
・「このように友だちとの根拠の違いに気づいた生徒や自分の意見を補充した生徒が多く見られた。したがって使用したシンキングツールは，意見を出会わせ，練り合うことに有効であったと考える。」
・「一方，３班と５班では『C　努力を要する』状況の生徒Ｓと生徒Ｗがいた。二人とも，シンキングツールを活用した意見の整理はできていたが，それを自分の考えに反映させることができていなかったと捉えている。どのような指導が必要だったのか。あるいは，他に原因があったのか，意見をお聞きしたい。」

全教職員の事後検討会への主体的・積極的な参加

事後検討会が全教諭の授業の質を変えるものになるように，参加者は次の点に留意する。
①当該単元については，必ず事前に学習指導要領解説で指導事項等を確認しておく。特に中学校においては，「他教科だから・・・」という消極的な意識で授業を参観するのではなく，同じ授業改善テーマで授業改善を進めているという自覚をもって臨むことが重要。
②協議では，児童生徒の具体的な姿をもとに，事実に基づいた発言を行う。
③協議の柱や本研究授業で明らかにすべきことを踏まえ，５点セットの【授業改善テーマ】や【取組内容】等に沿った，発言をする。

次のステップの明確化

○研究主任等は，研究授業で得られた成果と課題をまとめるだけでなく，次の研究授業に向けての課題，改善すべき点等，授業改善の取組の次のステップは何かを明確にし，確認することが重要である。

（４）教科部会・教科会議

○中学校では，教科部会・教科会議で，教科経営の基盤となる力を高め合うことにより，教科の専門性に基づいたより質の高い実践が実現できる。

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められている今日，教員には単元構想力やファシリテーターとしての力が一層求められる。

○以下の指導力は，教科部会・教科会議において，学習指導案の検討，互見授業，評価規準やカリキュラム等の共同作成等を通して高めることができる。

今後，必要とされる教師の力
○単元構想力　○単元計画を踏まえた１時間の展開力　○教材研究の力
○説明力　○カリキュラムマネジメントの力　○ICT の活用力・指導力

学校全体の研究協議

教科部会・教科会議

授業実践

【取組内容】に設定された共通の実践を進める

・各教科の目標や評価規準等の研究
・各教科の教材研究
・学習指導案の検討
・検証のための評価問題の作成
・教科に関わる教育情報の共有
・年間指導計画の作成・改善

研究授業の学習指導案事前検討会

事後検討会が授業改善テーマに基づいた視点で焦点化して行われるよう，教科部会・教科会議で学習指導案の事前検討会を専門的な見地から行うことが望ましい。

【学習指導案事前検討の視点例】

- □ 学習指導要領を踏まえ，指導内容（指導事項）を適切に理解しているか。
- □ 本単元（題材）の指導内容に関わる子どもの実態を適切に捉えているか。
- □ 教材（言語活動を含む）及び教材解釈は適切か。
- □ 育成すべき資質・能力を踏まえた単元の指導と評価の計画を作成しているか。
- □ 本時の目標（ねらい）と評価規準に整合性があるか。評価方法は適切か。
- □ 本時の学習展開は，無理がないか。また，前時や次時とのつながりがあるか。
- □ 本時の教師の発問は適切か。また，子どもの反応予想は適切か。
- □ 「C　努力を要する」状況の児童生徒に対する手立ては適切か。
- □ 板書は、子どもの思考を整理したり，思考を促したりできるものか。　等

教科部会の事例　（「３提言」推進重点校の実践より）

～相談や切磋琢磨できる環境づくり～

☞ 教科部会の目的の明確化

例えば，以下のような目的を全教職員で共有する。

○これからの時代に「求められる力」に応じた授業改善を進めるため。
○ベテラン教員のノウハウを若手教員に引き継いでいくため。

☞ 教科部会の日課表への位置付け

○教科部会を日課表に位置付けることで，定刻になると自ずと集まるようになる。
○50分の日もあれば内容によっては30分の日もある。
　可能な時間内での会議で行う。回数が重なるにつれ，
　話し合いが深まってくる。

☞ 教科部会の内容と日常の指導方法をリンク

○日常の授業の評価の仕方や指導法をそろえる。
○教師どうしの指導方法の違いや課題の吟味等，授業改善に
　向けた話合いができるようになる。

日課表に位置付けた「教科部会」

時間割

	月曜日					
	1	2	3	4	5	6
社会科A先生		3−3	3−1	2−1	教科部会	総合
社会科B先生	1−1	3−2				学活
社会科C先生	1−3			1−4		学活
英語科D先生	1−2	教科部会	3−2		1−1	学活
英語科E先生	3−3				3−1	2−1
英語科F先生	3−3			2−3	総合	2−1

時間割

	金曜日					
	1	2	3	4	5	6
音楽科A先生		1−3		教科部会	1−1	3−1
美術科B先生		1−1	3−1		1−2	
保本科C先生	2−2	1−4			学活	2−1
保本科D先生		3−1	1−3		3−3	
技家科D先生	1−4	1−4				3−2

教科部会の内容

- 授業進度や内容の情報交換
- 授業プリントや教材の共有
- つまずきの洗い出しと解決策の検討
- 評価規準や定期テストの検討
- 生徒による授業評価の分析　等

日課表に位置付けた教科部会の
充実，記録化

「教科部会」の効果 ⇒ 若手教員の育成（ＯＪＴの場）

３ CHECK　成果と課題の分析

○分析は，まず，授業改善の【取組指標】に則して，どの程度，授業改善の【取組内容】が実践できたのかを明らかにする。
○その後，予め設定している【検証指標】に則して，何がどの程度達成されたかという具体的な評価を行う。

分析の内容と方法については，下記のようなものが考えられる。

項　　目	内　　容	方　　法
取組指標	【取組内容】の実施状況について 【取組指標】に基づいて評価	**①教職員向け質問紙調査等** ・【取組指標】の達成状況の把握 ・取組を進める中で確認できた授業改善の要件等の把握 **②個人・学年部会・教科部会等における振り返り** ・各部会等で取組状況とその背景・原因について協議し，まとめる。
検証指標	児童生徒の変容について 【検証指標】に基づいて評価	**①児童生徒向け質問紙調査** ・【検証指標】の達成状況の把握 ・変化を見るために，最低年間３回は調査をする。 **②各種学力調査や定期考査等** ・【検証指標】に設定された領域や分野等に絞って把握する。 **③教員による意識調査** **④生徒による授業評価（次ページ参照）**

【第三者による評価】

①　研究発表会等

・教育関係者や保護者・地域住民に感想や意見を求めることは，多くの学校で行われている。その際は，聞きたい内容の観点を授業改善の【取組内容】に則して，分かりやすく提示しておくと結果を活用しやすい。
・得られた結果については，【検証指標】の達成状況と併せて，分析・考察の際に活用する。

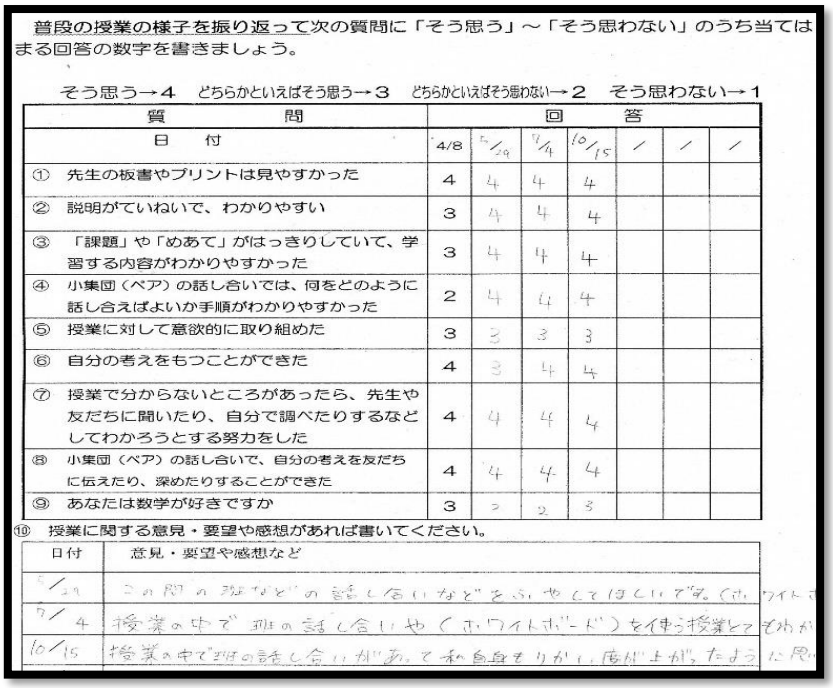
②　学校評価

・学校評価に当たって，【取組状況】や「授業改善で目指す児童生徒像の達成状況」を項目として設定した保護者アンケートを実施し，授業改善の評価資料とする。
・学校関係者評価等で，【授業改善テーマ】に関わって保護者や地域が協力できそうなこと等を協議してもらい，改善計画に活かす。

生徒による「授業評価」とは　（「３提言」推進重点校の実践より）

分かる授業，楽しい授業にするため，生徒の声に耳を傾け，困りやつまずきの様相を把握し，授業改善に生かすこと。

事例１　～教科ごとに，年間を通して１枚のシートで行う授業評価



普段の授業の様子を振り返って次の質問に「そう思う」～「そう思わない」のうち当てはまる回答の数字を書きましょう。

そう思う→4　どちらかといえばそう思う→3　どちらかといえばそう思わない→2　そう思わない→1

質問	回答						
日付	4/8	5/29	7/4	10/15	/	/	/
① 先生の板書やプリントは見やすかった	4	4	4	4			
② 説明がていねいで、わかりやすい	3	4	4	4			
③ 「課題」や「めあて」がはっきりしていて、学習する内容がわかりやすかった	3	4	4	4			
④ 小集団（ペア）の話し合いでは、何をどのように話し合えばよいか手順がわかりやすかった	2	4	4	4			
⑤ 授業に対して意欲的に取り組めた	3	3	3	3			
⑥ 自分の考えをもつことができた	4	3	4	4			
⑦ 授業で分からないところがあったら、先生や友だちに聞いたり、自分で調べたりするなどしてわかろうとする努力をした	4	4	4	4			
⑧ 小集団（ペア）の話し合いで、自分の考えを友だちに伝えたり、深めたりすることができた	4	4	4	4			
⑨ あなたは数学が好きですか	3	2	2	3			

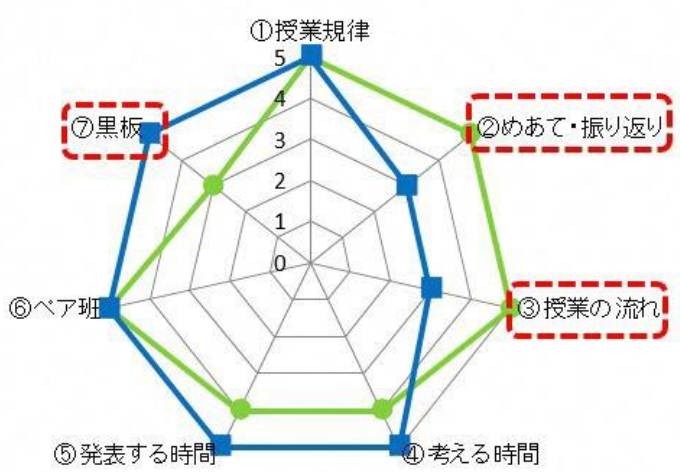
⑩ 授業に関する意見・要望や感想があれば書いてください。

日付	意見・要望や感想など
5/29	この間の班などの話し合いなどをふやしてほしいです。（ホワイトボ
7/4	授業の中で班の話し合いや（ホワイトボード）を使う授業とてもわか
10/15	授業の中で班の話し合いがあって私自身もりかい度がよがったような問

先生の説明が丁寧で分かりやすいし，数学が好きになってきたかも。

上は，数学の授業評価シート。 1枚にすることで，年間を通して変容が見えるので，教師にとっても生徒にとっても，成果や現在の状況が意識しやすい良さがある。

事例２　～生徒による授業評価の結果をレーダーチャートに～



ぼくの授業は，「めあて・振り返り」の提示や「授業の流れ」が生徒に伝わりにくいんだな。

私の授業は，「板書」に課題があるのか。
教科部会の時に，板書のコツを聞いてみよう。

①先生は，授業規律について指導した。
②「めあて・課題・まとめ・振り返り」があった。
③授業のはじめに「授業の流れ」が示されていた。
④自分で考えたり，調べたりする時間があった。
⑤自分で考えたり，調べたりした内容を発表する時間があった。
⑥ペア・班で意見を出し合ったりする時間があった。
⑦授業の内容が黒板に分かりやすくまとめられていた。

４ ACTION　新しい授業改善計画の立案と実施

検証結果に基づく，新しい授業改善計画立案までのプロセス例を下記に示す。このような考え方で，年間のＰＤＣＡサイクルはもちろん，短期ＰＤＣＡサイクルも実働させることが重要である。

＜ 授業改善の具体例 ＞

【取組内容】

単元や題材の中で，自分で調べる場面，班などで説明する場面を計画的に設定した単元計画の作成

【取組指標】

・年３回以上，調べる場面と説明する場面を設定した単元（題材）の指導計画を作成し，公開授業を行う。
・単元テスト等に，「知識等を活用して説明する」問題を毎回設定する。

【検証指標】

・単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率８０％以上。
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と肯定的な回答をする教員の割合８０％以上。

【検証結果】

・１学期間の単元末テストの「知識等を活用して説明する」問題の平均正答率６０％
・「授業が変わってきた」「学びが変わってきた」等と肯定的な回答をする教員の割合４０％

・Ａ層，Ｂ層，Ｃ層の子ども解答状況はどうか。
・説明する場面や調べる場面での子どもの状況はどうか。
・互見授業や研究授業で見られた課題や成果は何か。　等

【原因の分析】

（子どもの状況①）	（子どもの状況②）	（互見授業や研究授業 ）
・低学力層の子どもの解答に空白が目立つ。 ・中間層の子どもは，基本的な学習用語は使えているが，適切な文脈の中で使えていない。	・筋道を立てて簡潔に書くことが苦手な子どもが多い。 ・口頭での説明も筋道を立てて話せない子が半分ほどいる。	・単元の大切な学習用語を最初から黒板に位置付けるのはよい方法。 ・学習用語の意味理解が足りない授業も見られた。

【改善策】

①　筋道を立てて書かせるために，記述の説明モデルを作成し，個々の学習状況に合わせて活用させる。
②　学習用語の意味理解を促進するため，単元を通して，大切な学習用語はプレートに書いて，常に黒板に貼っておく。

「 授業改善の５点セット」の修正・・・取組内容や取組指標の付加修正

教育課程への反映

＜各種の学力調査を活用した検証・改善の進め方の例＞

（１）課題のある【問題】を絞る

（研究部等）

自校の全体的な正答率や授業中の児童生徒の実態に応じて，例えば次のような観点をもって自校の調査結果を整理する。

- ●自校の授業改善テーマに関わる問題で，平均正答率が８割未満の問題
- ●自校の授業改善テーマに関わる問題で，平均正答率は８割以上であるが，全国や県の平均に比べて低い問題
- ●自校の調査結果を経年で見た場合，複数年で６割未満の類似問題
- ●単元テスト等で苦手だということが予め把握出来て補充等を行っているにもかかわらず，正答率が低い問題
- ●自校の平均正答率の低い問題から３問　　など

（２）課題と捉えた【問題】を実際に解き，【問題】の趣旨を確認する

（教科部会や学年部会等）

・例えば，「全国学力・学習状況調査報告書」等をもとに，学習指導要領における領域・内容を確認する。その際，下学年からの系統性についても学習指導要領で確認する。

（３）自校の誤答の特徴を捉え，課題を明確化する

（教科部会や学年部会等）

・学力調査の解答類型と自校の反応率を見て，自校の誤答の特徴を捉える。
・その際，課題があるとした小問だけでなく，大問全体や，問題Ａと問題Ｂの同領域・同内容の問題等と併せて考えたり，比較したりする。

（４）指導の改善策を検討する

・当該学年に対する補充学習の方法を検討するだけでなく，誤答の類型をもとに，誤答の原因を踏まえ，学校全体で指導の改善案を検討する。
・検討の仕方は，学校規模や教員の年齢構成等により，以下の２つの方法が考えられる。
　①研究委員会や運営委員会が，教科部会・教科会議や学年部会で捉えた課題をもとに，指導の改善案を検討する。
　②教科部会・教科会議や学年部会で捉えた課題をもとに，教員全員で思考ツールを用いて分析するなど指導の改善点を検討する。

（５）指導の改善策をもとに【取組内容】を決定し，授業改善計画に反映させる

（研究委員会→運営委員会→全教職員）

・指導の改善案の中から授業に関する事柄を取り上げ，自校のこれまで授業改善テーマとの関連を踏まえ，授業改善計画に反映させる。

学力向上プランの作成

令和２年度学力向上プラン（参考様式）

○○立○○○学校　学力向上プラン（２月）

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)	
指導の状況	１ 組織的な授業改善の取組状況 ※８月に設定した取組状況に基づいて評価する。 ２ その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ※８月に設定した取組状況に基づいて評価する。 （例）補充指導，家庭学習指導，読書指導等	

学力に関する達成指標

※「学校評価の４点セット」に設定した達成指標から，学力向上プランに関わる達成指標を記入する。
※単元末テストや定期考査等の結果等，短期の検証・改善を行えるものを指標に用いること。また，年度を超えて経年比較できる国・県・市町村等の調査結果も併用することが望ましいが，これらは年に１回の実施が多く，短期の検証・改善が難しいため，それのみの指標は設定しない。
※次年度の達成指標を記載する。

今後の具体的な取組

【授業改善】

〈授業改善のテーマ・重点〉
※授業改善５点セットの〈授業改善テーマ〉・〈授業改善の重点〉を記載する。
※授業改善テーマが具体的な内容の場合，授業改善テーマと授業改善の重点を特に区別しなくてよい。

〈取組内容〉
※授業改善５点セットの〈取組内容〉を記載する。
※授業改善の検証の結果，変更した場合は更新する。

〈取組指標〉
※授業改善５点セットの〈取組指標〉を記載する。
※授業改善の検証の結果，変更した場合は更新する。

〈検証指標〉
※授業改善５点セットの〈検証指標〉を記載する。
※授業改善の検証の結果，変更した場合は更新する。

【家庭・地域との協働】

〈家庭・地域の取組内容〉

〈家庭・地域の取組指標〉

〈家庭・地域の検証指標〉
※必要に応じて設定する。

【授業改善以外の学力向上の取組】

※今後取り組む授業改善以外の学力向上の取組内容を記載する。
（例）補充指導，家庭学習指導，読書指導等

学力向上プラン作成における留意点

１．学力向上プランの位置付けについて

○ 学力向上プランは，【授業改善】の取組のみならず，【家庭・地域との協働】や【授業改善以外の学力向上の取組】（補充指導，家庭学習指導，読書指導等）を含めた学力向上に資する全ての取組に対する計画である。

２．「学校評価の４点セット」と「授業改善の５点セット」について

○ 〈授業改善テーマ・重点〉は，「学校評価の４点セット」の「重点目標」を，どのような授業で達成しようとするのかといった視点から設定する。

○ 「学校評価の４点セット」の「重点目標」は，資質・能力ベースで設定されているため，それを実現するための「重点的取組」は，〈授業改善テーマ・重点〉に整合する場合が多いと考えられる。

○ 「授業改善の５点セット」の〈取組指標〉は，「学校評価の４点セット」の「取組指標」と同様のものが位置付く場合もある。また，必要に応じてさらに具体化した「授業改善の５点セット」の〈取組指標〉を加えて設定するなどが考えられる。

３．「学力に関する達成指標」について

○ 「学力に関する達成指標」は，授業改善だけでなく，学力向上の取組全てを通して 達成することを目指して設定する。

○ 通常は，「学力に関する達成指標」は，「学校評価の４点セット」に設定した達成指標の中から，学力向上プランに関わる達成指標を記載する場合が多い。

○ 各学校における単元末テストや定期考査等の結果等，短期の検証・改善を行えるものを指標に用いること。また，年度を超えて経年比較できる国・県・市町村等の調査結果も併用することが望ましいが，これらは年に１回の実施が多く，短期の検証・改善が難しいため，それのみの指標は設定しない。

○ 必要に応じ，児童生徒向けアンケート等の結果や，児童生徒の成長が実感される行動を可視化した数値を設定するなどの工夫も考えられる。

４．「授業改善の５点セット」の〈検証指標〉について

○ 〈検証指標〉は，授業改善が進んだかどうかを検証するための指標。

○ 〈検証指標〉は，単元末テストや定期考査の結果，児童生徒の意識調査の結果，観点別評価の結果，学校評価の結果等を活用する。

○ 〈検証指標〉を達成することで，「学力に関する達成指標」の達成に確実に近づくように設計する。

おわりに

○まとめ

Ｐｌａｎ
○「授業改善の５点セット」の作成
○「授業改善の５点セット」に基づく授業実践と研究協議
○ 学校全体で授業改善を進めていくための体制作り
・管理職による授業観察
・授業改善計画の作成
・研究授業や互見授業の計画

Ｄｏ
○授業実践，研究協議，研究授業，教科部会・教科会議の留意点

Ｃｈｅｃｋ
○取組指標・検証指標を使った分析の方法

Ａｃｔｉｏｎ
○新しい授業改善計画の立案

上のような**マネジメントサイクル**を取り入れた授業改善を進めるためには，次の４点が重要である。

①重点目標と連動したテーマのもと，検証指標を明確にして取り組むこと
②各教員が取り組む授業改善の内容を明らかにすること
③管理職が主幹教諭・教務主任及び指導教諭・研究主任に適切な指導助言を与えながら，学校全体で授業改善を進めること
④これらの取組を，教育課程の編成・実施・評価・改善につなげること

○おわりに

新学習指導要領の全面実施，GIGA スクール構想の急速な進展，「個別最適な学びと協働的な学び」の要素を重視する「令和の日本型学校教育」（中教審答申 R3.1）の提示，若手教員の急増等々に対応するために，今こそ学校全体の組織的な授業改善が求められます。

目指す授業が，子どもに意欲と力（資質・能力）を確実に身につけさせる授業であること，そのために主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めていくということに変わりはありません。本手引きを活用し，これまでの取組の確認，一層の充実にお役立て下さい。

各学校において，マネジメントサイクルを取り入れた組織的な授業改善が進み、教員が授業改善に楽しさややり甲斐を感じるとともに，子どもたちの「楽しい！」「分かった！」という声が響きわたる学校になることを願っています。

令和３年　３月
義務教育課長　内海 真理子